

あいあい通信

AIAI-TSUSHIN 2009.9 Vol.42



Matsuda Hospital



◆院長の一言 メッセージ

松田病院の地鳴り

院長 松田 保秀

チーム医療として確立し、多くの方々にご利用いただいております。また動脈硬化度、血管年齢、静脈瘤など血管外科の専門外来は海野医師が担当し、血管ドックと合わせて時代にマッチした注目の分野となっております。さらに4～5年前から急速に患者さんが増えているヘルニア外来は、単径ヘルニア、膈ヘルニアばかりでなく、高齢になってから発症しやすい開腹術後の腹壁癒着ヘルニアなどに対して、化学繊維を使用した簡便で低侵襲な手術と短期入院が人気を集めています。そして月曜日午後の肛門科女性外来は、そつと来院して素早く適確な診療が受けられる点で、隠れた専門外来として密

かな需要があります。さらに便秘外来では排便障害や便漏れの悩みが目立ってきました。一方、診療機能として、当院の診療体制はさらに安全性・合理性・高機能医療を求めて、この7月からDPC（診断群分類別包括評価）体制に入りました。つまり入院の包括医療です。また、7月には内視鏡検査の質的向上を目指し、装置の全面更新と機能の先進化を図りました。これによりすべての内視鏡機台でNBI（スクリーニング（光の波長制御による画像強調表示）および病変の拡大観察が可能となりました。8月からは病棟の高度看護体制を確保して、7対1看護基準を取得し、多くの看護師により手厚

く質の高いナースングがご提供できるものと信じたいします。そして目下、慎重に進めているプロジェクトは、来年11月26～27日にアクトシティ浜松で私が会長を務めて開催する日本大腸肛門病学会総会です。6,500名を超える会員を有する全国学会なので、有意義で印象深い学術集会になるべく準備しているところです。最後に、当院のモットーである「きれいな施設で小回りが利いた質の高い医療」のために、今後とも一歩一歩前進してゆきたいと思っています。皆様の温かいご声援を期待いたします。

今年 年の気候異変は並みのものではないようです。このような予兆はここ数年前から国民が感じていたものかも知れません。落石、土砂崩れ、鉄砲水などの山間災害と、市街地における突然の濁流、市中洪水、集中豪雨などの都市災害等、思い出せば静かに進行していた列島災害の前兆であったように思われます。そして、今年の梅雨明けの不明瞭なこと。台風9号や静岡地震などの災害を見聞きしていると、日本列島は実は土砂列島であって、余りにも脆弱であたかも土木工学の実験場の感さえあります。被災された方々には本当にお気の毒で、お悔やみの言葉もありません。

私は今年ほど自然の営みの巨大なエネルギーを感じたことはありません。そして皆既日食のニュースを見ていて、正に自然の独演会を見せつけられた気がします。さて、このような自然現象の激変の中において、当院も確実に少しずつ変貌を遂げつつあることをご紹介しましょう。当院が完全電子カルテ体制をスタートして6年が経過しようとしています。診療において、内視鏡の映像やレントゲン画像の迅速な提示はご存知の如くですが、意外と知られていないのが特殊分野での充実した診療です。例えば、抗癌剤による複雑で総合的な療法（化学療法）が

大腸がんについて第3回

”大腸がん治療ガイドライン“

インターネットの普及などにより情報入手が容易な世の中となつていきます。しかし、情報が多いとその整理に困惑してしまう（どの情報を信じたらいいのだろう？）こともよくあることです。わが国では大腸癌の治療は”大腸癌治療ガイドライン“（金原出版株式会社）に則り行われています。松田病院でも、このガイドラインをわが国の標準治療と考え、当院で治療をなされる患者さまが過不足のない治療をお受けになれるように日々研鑽を積んでいます。ガイドラインには患者さん用として、”大腸癌治療ガイドラインの解説“（写真）

が市販されています。表紙は当院の浅野医師や私自身が”大腸癌治療の手ほどきを受けた森武生（現、都立駒込病院名誉院長）のスケッチで飾られています。



写真

この解説書には、ガイドラインとは何か、大腸癌とはどんな病気かで

始まり、疫学、検査、治療、治療の指針となるステージなどについて平易に説明してあります。そして、最後は患者さまが常日頃疑問に思われることに対するQ&Aで終わっています。ともに知識を持つことは病気に立ち向かっていくときの勇氣にもなることがあります。ご自身やご家族が大腸癌を患ってしまった場合には是非一読されることをお勧めします。”大腸癌治療ガイドラインの解説“は当院の売店でも注文できます。

さて、松田病院では年間6,700例ほどの大腸内視鏡検査をさせてい

田中 莊一 医師

Souichi Tanaka



ただいていることや近隣の先生方からご紹介いただくこともあり、毎年120例前後の大腸癌手術をさせていただいています。治療成績は5年生存率（手術をしてから5年後にどれぐらいの患者さまがお元気にされているかをみる一つの指標）で評価することが多いのですが、松田病院のステージ2の5年生存率は86.2%で他施設と比べて遜色のない結果でした。

当院の特徴としてはEMRやESDと呼ばれる内視鏡治療を積極的に行っていること、FOLFOX、FOLFIRIと呼ばれる抗癌剤治療にアバスタチン、アービタックスと呼ばれる分子標的薬を加えた抗癌剤治療を積極的に行っていること（化学療法カンファレンスを行って適切な治療が行われているかなどについても評価しています）、腹腔鏡手術（低侵襲手術として注目されています）を行っていることです。当院では症例を選んで、あるいは患者さまの要望にお応えして行っています。担当医とご相談ください。

大腸癌治療は日進月歩で進んでいます。特に、抗癌剤治療は有効性が高くなっています。しかし、種々の薬剤の登場により、複雑になり、経済的な負担も大きくなっています。ガイドラインに則った標準治療が基本ですが、個々の患者さまの背景に配慮したテーラーメイドの診療が大事だと考えています。最終的には医師に一任ということになるかもしれませんが、患者さま自身もガイドラインを参考にして病状をよく理解していただき、そのうえで、医師や医療スタッフともよく相談して治療を受けていただく時代になってきました。

特殊光（NBI）による内視鏡診断・治療

内視鏡センター長 浅野道雄



松田病院内視鏡センターでは、今年7月に全ての内視鏡機器が最新のものに入れ替わりました。

2005年以来4年ぶりとなりました。中でも特筆されるものとして、NBIシステムがあります。これまでも1台導入されていましたが、今回、5台すべてがNBI対応となり、拡大内視鏡との併用で様々な有用性を発揮しています。

NBIとは、Narrow band imagingの略で、特殊光で粘膜を観察するしくみです（図1）。ポタンひとつで画面が茶色にかわり、通常みえないものがみえるようになります（図2）。拡大内視鏡と組み合わせることにより、主に粘膜表面の微小な血管や模様

（ピットパターン・IPCL）がわかるようになり、胃や大腸のポリプが悪性かどうか、胃癌の広がり、食道癌の有無などをかなり正確に診断することができ（図3）。また、最近では、咽頭癌の診断にも有用であることがわかっています。

これまでこの方法は、特殊な精密検査と位置づけられておりましたが、当センターでは、他の施設に先駆けて、通常のすべての内視鏡検査で、NBI観察ができるようになりました。また、早期胃癌や早期大腸癌の内視鏡治療の前には、NBIを使って、病変の深さや範囲を十分に診断しています。

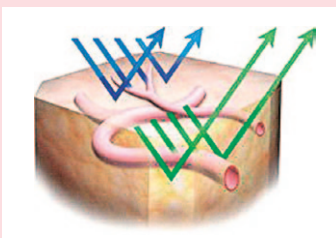


図1 NBIの原理

特殊なフィルターを使って青色側の限られた波長の光を照射します。この光は組織のごく浅い部分にまでしか透過しないため、血液中のヘモグロビンに吸収されやすい波長の光とすることにより、粘膜表層の毛細血管、粘膜微細模様を明瞭に得ることができます。

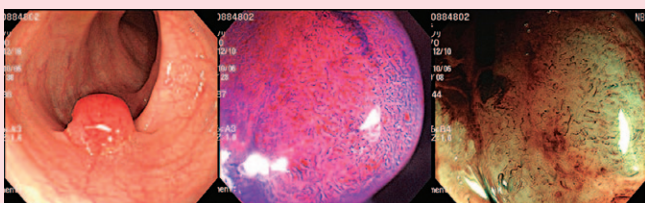


図3 早期大腸癌の内視鏡写真

見つかったポリプ（左）をNBIで拡大観察すると、細い血管が途切れ途切れになっていることから、癌であると診断できます（右）。従来は紫色の色素をかけて、その模様（ピットパターン）で診断していました（中）。

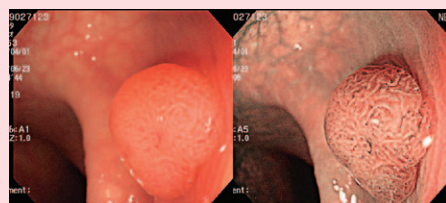


図2 普通の観察とNBI特殊光観察

新 任 ドクター 紹 介



田島 雄介 医師

① 出身地

神奈川県厚木市出身です。小学校から高校までは横浜の森羽学園という学校に12年間通って通っていました。

② 血液型・星座

O型・ふたご座です。

③ 医師になった動機、略歴など

小さい頃は、よく喘息発作を起こしていた、一時は入院して治療を受けることもありましたが、その入院したときの担当の先生や看護師さん達の「優しさ」がきっかけで、医師を目指した。また父も医師であり、その姿を見ていた。大学は埼玉医科大学で、勉強に励む一方スポーツも好きなのでラグビー部に所属し汗を流しました。卒業後は埼玉医科大学総合医療センターに就職し、3年目に同病院の消化管・一般外科に転局しました。

松田病院との出会いは、去年の冬、浅野先生の埼玉医大での講演がきっかけです。浅野先生のお話を聞いて、「肛門疾患と内視鏡検査および治療を積極的に行っているこの病院で研修したい」と思うようになり、この度その願いがかなった次第であります!!

④ 趣味、ストレス解消法

趣味は料理です!! 特にカリッの高音のものを好んで作ります。あとはラグビーなど特にボールを使うスポーツが好きで、観戦も好きです。

ストレス解消法は、スーパー銭湯に行ったり風呂に入ったりからマッサージを受けることです。

⑤ 浜松の印象

浜松はうなぎが有名ですね。埼玉県の川越市もうなぎが有名で、どちらが美味しいか早く食べ比べしてみたいと思っています。

⑥ 読者へのメッセージ

まだまだ未熟(体型、態度は立派?)ですが、「笑顔」を大切に診療したいと思っています。よろしく願います。

◆大腸と肛門疾患の知識を深めてみませんか?

(患者セミナーのご案内)



病気の発見も予防もまずは正しい知識から。当院では患者様や地域の皆様への医療サービスとして毎週火曜日「大腸と肛門病のセミナー」を開催しております。近年増加傾向にある大腸癌やその症状、内視鏡検査でのポリープの取り方、また、おしりの疾病の種類や

治療法など当院の専門分野を中心に説明しております。講師は当院の医師が持ち回りで担当しておりますので、各ドクター秘蔵のスライドを用い、それぞれ特徴ある話を聞く事ができます。もちろん入場無料。どなたでも参加できますので気軽にお越し下さい。

・日時…毎週火曜日 18:15 (約1時間)
・場所…松田病院3F会議室

編集後記

広報委員会 渡部真一

ガイドラインの本という専門的で難しいイメージがありますが、ご紹介した解説本はとてわかりやすく書かれています。納得した治療を受けるためにも、患者様はもとより興味のある方は一度読まれてはいかがでしょうか。今号より本誌はスリム化したしましたが、できる限り多くの新しい情報をお届けしていきたいと思っています。



●患者様へお願い●月1回、必ず保険証の提示をお願いいたします。

【外来診療のご案内】

	受付時間	月	火	水	木	金	土
胃腸科・肛門科	8:30~11:30	●	●	●	●	●	
	8:15~14:00						●
	14:00~16:00	●	●	●	●	●	

午前中の診療に限り予約制になっております。

※予約のない方は、予約外担当医師が診察いたします。

その他の診療科

	受付時間	月	火	水	木	金	土
IBD(炎症性腸疾患)外来	8:30~11:30				●		●
ヘルニア外来		●	●				●
便秘外来						●	
内科相談				●			
ストーマ外来			●	●		●	
泌尿器科相談				●			
女性専門外来	14:00~15:00	●					



特定医療法人
社団 松愛会

松田病院

〒432-8061 浜松市西区入野町753番地

TEL.053-448-5121 (代) FAX.053-448-9753

JR=浜松駅下車 タクシーで10分 高塚駅下車 タクシーで5分
バス=浜松駅バスターミナル 5番ポール(宇布見、山崎行) 乗車
東彦尾または西郵便局下車 徒歩5分 駐車場 180台

E-mail cra@matsuda-hp.or.jp

ホームページ <http://www.matsuda-hp.or.jp/>

(発行/松田病院広報委員会)